

成人の主張

大久保 諒子

本日は私もも新成人のために、このような盛大な式典を開催していただき誠にありがとうございます。私達も今日から、一人の大人として、皆様の仲間入りをさせて頂いたことにになりました。

この場を多くの友達と共に迎えられたのは、家族、学校の先生方、地域の皆様が私達の成長を見守ってくださったからだと思います。心より感謝しております。

私は、小学2年生から「和太鼓」を叩いています。始めは、少し叩いていっばい遊ぶことが楽しみで練習に通ってました。小学4年生のころ、大人のグループ「一番風」の存在を知りました。ご存知の方も多いと思います。本日も私達のために、後に演奏してください。 「一番風」は、吾北の夏祭り、ほのほの王国もみじまつりなど、町内外、県外と多くの舞台で演奏しています。その姿を見て、大人になったら一緒に叩くことが私の夢となりました。中学、高校は和太鼓部に所属し、毎週水曜日と日曜日の夜

は「一番風」の指導を受けるようになり、ますます夢はふくらんでいきました。高校では、クラスの友達も多数入部して、日々楽しく、支え合いながら練習に励み、「吾北清流太鼓部」として、イベントに参加し、披露しました。人前に出るの演奏は、緊張して失敗もたくさんありましたが、お客様の笑顔と拍手を心地良く感じる事ができて、うれしかったです。

そして、高校を卒業してから「一番風」に入れていただくことができました。舞台での演奏に参加させてもらい、幼いころからの夢も叶い、今すぐく幸せです。

叩く技術はもちろん大切ですが、私はもう一つ学んだことがあります。それは、「目配り、気配り、心配り」です。師である先輩のメンバーの皆さん、スタッフの方々、お客様にと「自分でできることを見つけ、スムーズにスマートに動く」を、いつも心に留めて日々頑張っています。

最後になりましたが、私を励まし、応援してくれた両親に感謝をし、私の成人の主張とさせて頂いていただきます。ご清聴ありがとうございます。

地域の農作物に野生鳥獣による被害が増えています



無意識に野生鳥獣への「餌付け」をしていませんか？

野生鳥獣は、里山周辺の高栄養なエサを食べることにより急激に頭数を増やし、より一層のエサを求めて作物への被害を拡大します。つまり、エサがあるから頭数が増え、被害を拡げていく悪循環を繰り返しているのです。

例えば、こうしたことが餌付けになっていきます



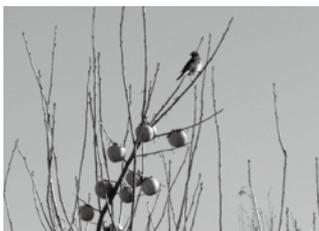
傷んだ果実類の放置



野菜クズの放置



2番稲(ひこばえ)の放置



収穫するつもりが無果樹



防除対策していない果樹



収集時間を無視した生ゴミ出し

■ 野生鳥獣の密度を減らすのは今(1月～2月の厳冬期)がチャンスです！

自然界では、冬期のエサ不足によって生息数(頭数)のバランスが保たれています。この季節に地域から高栄養な人口のエサを無くし自然のバランスを回復することで、地域内の野生鳥獣を正常な数に減らすことができます。

収穫する予定の無い果樹類や果実・野菜クズ、お墓のお供えものや生ゴミなど、野生鳥獣のエサになるものを可能な限り無くして(隠して)悪循環を断ち切りましょう。

収穫する果実類は防鳥網で囲い、残渣類は、土に埋めるかブルーシートなどで覆って野生鳥獣に食べられないようにしましょう。また、2番稲(ひこばえ)の生えた水田も早めに耕耘しましょう。



防鳥網による食害防止対策の様子

問い合わせ 産業経済課 ☎ 893-1115 / 吾北総合支所産業課 ☎ 867-2313 / 本川総合支所産業建設課 ☎ 869-2115